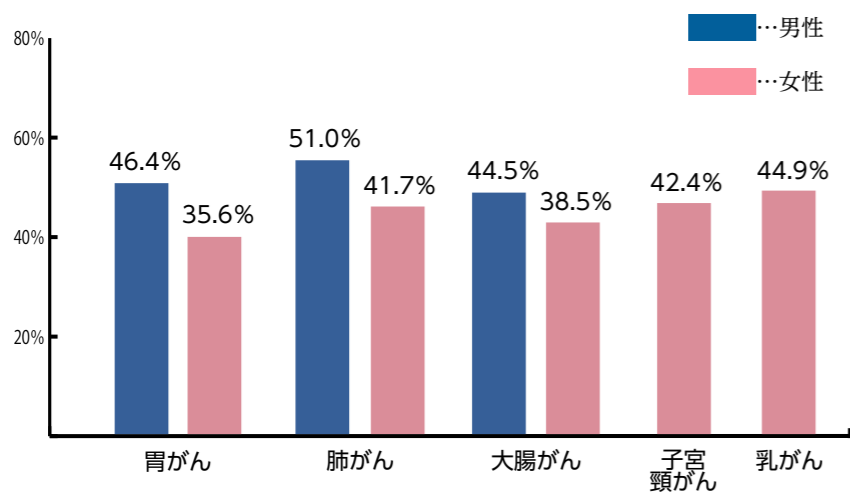


図4 がん検診受診状況

出典：平成28年度国民生活基礎調査（厚生労働省）



日本のがん検診受診率は

男性で約 **50%**

女性で約 **40%**

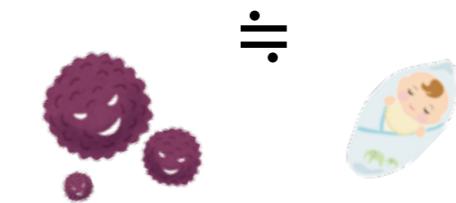
※胃がん・肺がん・乳がん・大腸がんは40歳以上、子宮頸がんは20歳以上を対象。
※子宮頸がん・乳がん検診は、「2年に1度」の受診が推奨されているため、平成27年と平成28年の検診受診者数の合計に基づく検診受診率です。

図2 がん患者数と出生数

出典：茨城県地域がん登録事業「平成25・26年罹患集計」、平成27年度統計古河

H26に新たにがんと診断された古河市民* 982人

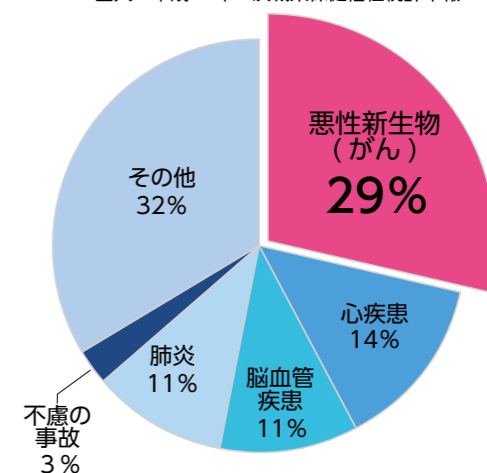
H26古河市の1年間の出生数 1,083人



※上皮内がんを除く。

図1 古河市の死因別死亡者割合

出典：平成27年 茨城県保健福祉統計年報



「知ること」は「治すこと」への第一歩

～年に一度は検診を受け、自分の健康は自分で守る～

2人に1人ががんになる時代

日本人の死亡原因で昭和56年以來第1位の「がん」。古河市における死因の第1位もがんであり、死者全体の約30%を占めています(図1)。その病名はよく耳にしますが、自分だけががんにならないと思っていまいませんか。

一生のうち男性は3人に2人、女性は2人に1人ががんになるといわれています。また、「平成25・26年罹患集計」によると、平成26年度に新たにがんと診断された古河市民の数と平成26年度の出生者数がほぼ同数となっており、多くの市民ががんになっていることが分かります(図2)。

初期のがんは、自分で発見できる場合もありますが、自覚症状をあまり感じないものもあり、気が付いた時には症状が進行していることも多くあります。「若いから検診はまだいい」「親族にがんになった人がいないから大丈夫」と思い込まず、がんは誰でもかかる可能性がある病だと考えるべきです。

大切なのは早期発見・早期治療

近年では、若い世代でもがんになる確率が高まっています。20代以下であれば白血病や脳腫瘍、30代以上の女性であれば子宮頸

がんや乳がんなどの罹患割合が高くなっています。この現状から、年齢に関係なく誰にでもなる可能性がある病だということが分かります。昔は不治の病と言われていたがんですが、医学の進歩により、現在では「がんは治る病気」と認識されるようになってきています。ただし、治療が可能になってきたがんであっても早期発見が何よりも大切です。胃がん・肺がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がんの5つのがんは、検診を受けることで早期発見でき、早期治療につなげることで死亡率を低下させることができると証明されています(図3)。

低いがん検診受診率

平成28年に実施された「国民生活基礎調査」(図4)によると、日本のがん検診受診率は、男性においては、胃がん・肺がん・大腸がんの受診率が40%、50%。女性においては、子宮頸がん・乳がんを含めた5つのがん検診の受診率が30%、40%に留まっています。

また、検診の結果、要精密検査の診断を受けても、忙しさや自覚症状が無いという理由に検査を受診しない人もいます。しかし、市で実施しているがん検診を受診した人で、精密検査を必要とされ、検査を受けた人の約80%に何らかの異常が見つかっています。

がんは身近な病気、早期発見で治せる病気

◆がんは身近な病気

今、日本人は一生のうち2人に1人ががんになるとされています。2人という単位は夫婦の単位ですから、一生のうち夫婦のどちらかががんになると言い換えられます。ということは、日本人のどの家庭にもがん患者がいておかしくないということになります。がんは高齢になるほどできやすいといわれていますが、子宮頸がんや乳がんなど女性のがんは若年化が進んでいます。

◆がんは予防できる病気

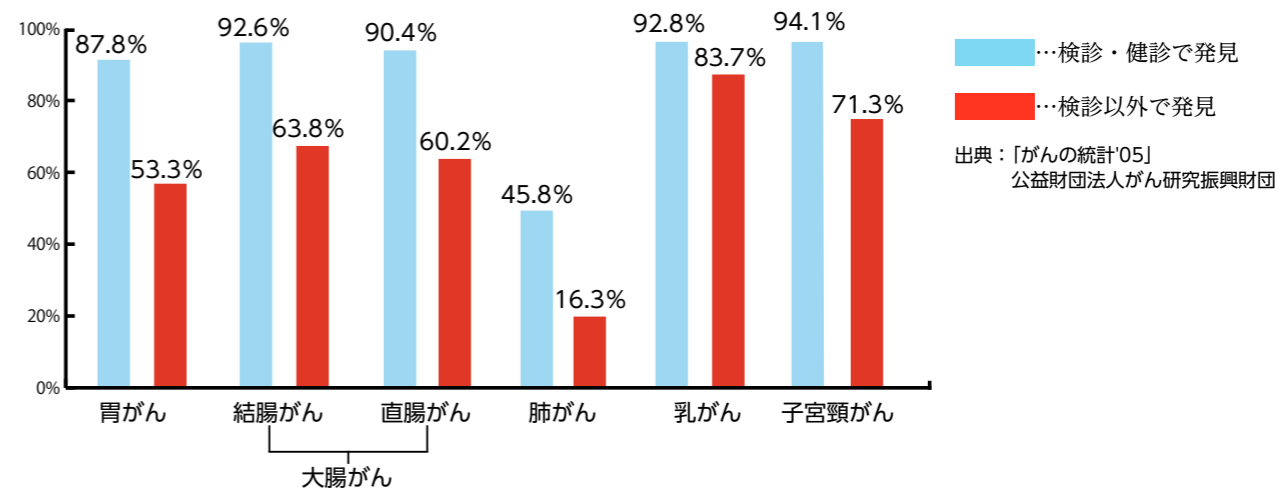
病原体ががんの原因になっている場合は、それを薬で殺してしまえば

いいわけです。代表的なものとして肝臓がんが挙げられます。肝炎ウイルスが原因ですので、それを見つけたら薬を飲めば治療できます。このようにがんになる前に原因を絶つことができればがんは防げます。

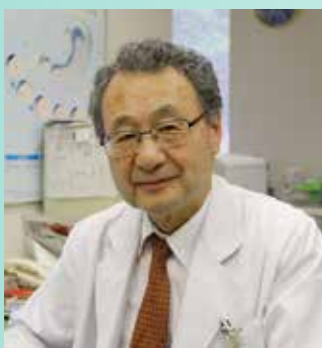
◆早期発見、早期治療

多くのがんは、タバコ・排気ガス・PM2.5など生活環境によるものが原因です。それらを完全に絶つことはできませんので、その予防には定期健診しかありません。症状が出る前にがん検診を受けて早期に発見し、治療に結びつけるわけです。早期がんならば、どのがんでも9割は治ります。つまり、ほぼ治せるのです。

図3 がんと診断されてから5年後の生存率



出典：「がんの統計'05」公益財団法人がん研究振興財団



古河福祉の森診療所 赤荻榮一 医師